

地域と共に取り組む防災教育

～ふるさと小屋浦を愛し、

将来、小屋浦の復興・発展を支えようとする人材の育成～

坂町立小屋浦小学校

1 はじめに

坂町は、広島県の南西部、広島市と呉市との間に位置し、美しい緑に囲まれ、穏やかな瀬戸内海に面した豊かな自然環境に恵まれており、市街地が坂、横浜、小屋浦の3地区に広がっている。小屋浦地区は、山地が海岸まで迫る地形をしており、山裾や地区を流れる天地川の下流域に住宅地が広がっており、人口は昭和50年度を境として少しずつ減少している。

小屋浦地区に位置する本校は、明治6年「簡成舎」として創立し、令和5年で創立150年を迎えた。令和7年度の学級数は6学級、児童数56名の小規模校である。

2 本校の実態

平成30年7月6日、西日本豪雨災害で広島県坂町小屋浦は、地域を東西に流れる天地川の氾濫により、多くの家屋や施設等が土石流による被害を受け、亡くなられた方もいる。9割の児童の家庭が被災し、小屋浦小学校の校庭には多くの土砂や瓦礫が運び込まれた。全国から駆け付けたボランティアや、自衛隊、警察、消防などの救援活動により、少しずつ復旧作業が進められたが、多数の児童が地域でも、家庭でも、学校でも、不自由な暮らしを経験した。



平成30年8月11日の小屋浦小学校の様子

そんな中、8月末には学校が再開し、全児童が転校することなく登校した。教職員と児童は「この悲しい出来事を二度と繰り返したくない。」「小屋浦の町に笑顔を取り戻したい。」という願いを強くもった。そして、「この願いをかなえるためには教育しかない。」と考え、本校の「総合的な学習の時間」を中心とした防災教育は、平成30年の災害直後からスタートし、7年経った現在も取組を続けている。

小屋浦小の防災教育

～ふるさと小屋浦を愛し、将来、小屋浦の復興・発展を支えようとする人材の育成～

○「正しい知識や有効な手立て」を学び、未来に向けて備えていこうとする力を育てる。

(そなえる)

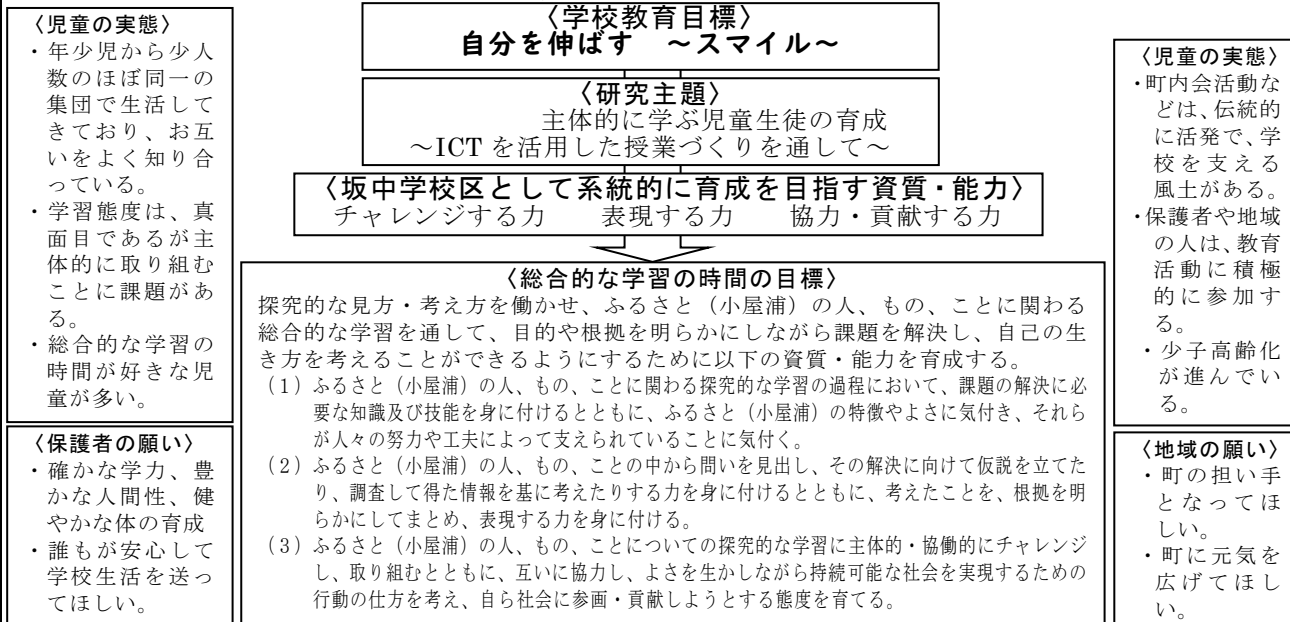
○「自助・共助・公助」を意識し、人々とのつながりを大切にしていこうとする力を育てる。(かかわる・つなぐ)

○「経験」を未来に語り継ぎ、未来を生き抜いていこうとする力を育てる。(いきぬく)

3 取組の実際

本稿では、令和6年度の3～5年生の取組、令和6年度の6年生の4年間（3～6年生）の取組及び令和7年度の全校の取組を紹介する。

(1) 令和6年度 「総合的な学習の時間」全体計画



【学校として定める探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

学 年		3 年	4 年	5 年	6 年
テーマ		自然がいっぱい 花いっぱい小屋浦	小屋浦のこと伝え隊 災害について知ろう	小屋浦の安全守り隊 小屋浦に笑顔を広げよう	地域とつながる 笑顔あふれる小屋浦
探究課題		小屋浦の自然	小屋浦の自然 環境	小屋浦の未来と環境	小屋浦の未来とつながり
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	知識	小屋浦のよさに気付き、理解している。	小屋浦の環境や、地域の人々の願いや工夫を理解している。	小屋浦の復興のための、課題や人々の願いを理解している。
		技能	小屋浦の自然を大切にしたり人に挨拶をしたりするなど適切に接することができる。	安全な小屋浦のために自分で行おうとすることができる。	小屋浦の復興のために自分で行おうとすることができる。
	課題設定のスキル 情報収集のスキル 思考のスキル（比較・分析・関連付け） 表現のスキル				
	探究的な学習のよさの理解 探究課題に対する自分たちの意識や行動の変容は、探究的に学んだことによる成果だと気付いている。				
思考力・判断力・表現力等	課題の設定	経験を基に、知りたい、考えたいことから課題意識をもつことができる。	経験を基に、問題の場面・状況に応じて課題意識をもつことができる。	経験を基に、問題の場面・状況に応じて課題意識をもつことができる。	経験を基に、問題の場面・状況に応じて課題意識をもつことができる。
	情報の収集	必要な情報を収集し、取捨選択することができる。	必要な情報を収集し、分析することができる。	必要な情報を収集し、分析することができる。	必要な情報を収集し、分析することができる。
	整理・分析	収集した情報から、問題状況の事実や関係を把握し課題解決に向け、事象を比較、分類したり、関係付けたりして考えることができる。	分析した情報から、問題状況の事実や関係を把握し・理解し、問題解決に向け、事象を比較、分類、序列化したり関係付けたりし、解決への自分なりの考えをもつことができる。	分析した情報から、問題状況の事実や関係を把握し・理解し、問題解決に向け、事象を比較、分類、序列化したり関係付けたりし、解決への自分なりの考えをもつことができる。	分析した情報から、問題状況の事実や関係を把握し・理解し、問題解決に向け、事象を比較、分類、序列化したり関係付けたりし、解決への自分なりの考えをもつことができる。
学びに向かう力・人間性等	主体性・協働性	自分のこととして考え、課題や目標に対して意欲的に行動する。自他のよさを生かしながら、友だちや地域の方と協働して、問題の解決に向け、取り組もうとしている。	自ら課題を見付け、自分のこととして捉え、責任をもって行動するとともに、自他のよさを生かしながら協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。	自ら課題を見付け、自分のこととして捉え、責任をもって行動するとともに、自他のよさを生かしながら協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。	自ら課題を見付け、自分のこととして捉え、責任をもって行動するとともに、自他のよさを生かしながら協働して探究活動に取り組み、協働の大切さに気付いている。
	自己理解・他者理解	身近な人、もの、こと、地域の関わりの中で、自他それぞれに良さがあることに気付き、学び合おうとしている。	身近な人、もの、こと、地域の関わりの中で、自他の良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。	身近な人、もの、こと、地域の関わりの中で、自他の良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。	身近な人、もの、こと、地域の関わりの中で、自他の良さを生かしながら協働して学び合おうとしている。
	将来展望・社会参画	学校や家庭、地域の中での役割に気付き、できることを見付けようとしている。	学校や家庭、地域の中での役割を考え、自分ができることを見付け、地域社会の一員として、活動に参画しようとしている。	学校や家庭、地域の中での役割を考え、自分ができることを見付け、地域社会の一員として、活動に参画しようとしている。	学校や家庭、地域の中での役割を考え、自分ができることを見付け、地域社会の一員として、活動に参画しようとしている。

(2) 活動の実践状況

「総合的な学習の時間」全体計画を基に、次のように防災教育を実施している。

3年生	そなえる	災害について正しく学び、「スマイル花壇」に花を咲かせる活動を通して、小屋浦を花いっぱい、笑顔いっぱいにする。
4年生		災害について正しく学び、自らの防災意識を高めるとともに、地域の人々に発信する方法を考える。
5年生	つなぐ・かかわる	学んだことを発信し、地域の防災意識を高めるとともに、小屋浦のために、自分にできることを考える。
6年生	いきぬく	発信を継続するとともに、小屋浦の未来のために、自分にできることを考える。

3年生の取組・・・【そなえる】災害について正しく学び、「スマイル花壇」に花を咲かせる活動を通して、小屋浦を花いっぱい、笑顔いっぱいにする。

- 「スマイルサポーター（スマイル花壇の世話をサポートして下さる地域のボランティア）」のお話を聞いて、災害当時の町の様子や、スマイル花壇が誕生した経緯を学ぶことから活動をスタートさせた。



- 1年を通して、「スマイルサポーター」のサポートを受けながら、「スマイル花壇」の世話をした。スマイル花壇にたくさんの花を咲かせることで、小屋浦の人々を笑顔にすることができた。



- 「ありがとうの会」を行い、一年間の「スマイル花壇」の活動を通して学んだことを発表したり、「スマイルサポーター」の皆さんに感謝の気持ちを伝えたりした。



- 次の学年に「スマイル花壇」の活動を引き継いだ。

2年生は3年生に、水やりの仕方や、道具の使い方などを教えてもらうことを通して「次は自分たちの番だ。」という意欲を高めていた。



- 4年生の取組**・・・【そなえる】災害について正しく学び、自らの防災意識を高めるとともに、地域の人々に発信する方法を考える。

- 広島県 みんなで減災推進課による「ひろしま防災出前講座」を受講し、「マイタイムライン」の作成の仕方を学んだり、「避難所運営ゲーム」体験を通して避難所の在り方を考えたりした。



○ 地域の方をゲストティーチャーとして招き、災害当時に体験したことや災害を風化させてはならないという思いや、命を守るための「防災バッグ」をどのように準備するかを学んだ。この授業をきっかけに、多くの児童が実際に家庭で防災バックを準備した。



○ 学んだことを基に、新聞紙を利用したスリッパや、ペットボトルを利用したランタンなど、手作り防災グッズづくりに挑戦し、参観日で保護者に紹介した。また、学校内にある段ボールベッドや簡易トイレを組み立てるなどし、実際に避難所に避難したときに役立つ経験をした。



○ 災害当時の記憶が少ししかない児童が多いため、忘れてしまわないように記録することや、小さな子供でもどんな災害だったかが分かるようにすることを目的に「まだみぬすべてのこどもたちへ」という絵本を制作した。



5年生の取組・・・【つなぐ・かかわる】学んだことを発信し、地域の防災意識を高めるとともに、小屋浦のために、自分にできることを考える。

○ 令和5年度以内に、卒業前の6年生から「防災紙芝居」を引き継ぎ、令和6年度以降は新たな語り手として、さまざまな場所で「防災紙芝居」を披露している。

<児童が制作した「防災紙芝居」>

防災紙芝居「あの日のできごと～平成30年7月ごう雨災害～」は、令和5年度の6年生が4年生の時に、児童の記憶や経験を基に制作したものである。地域の紙芝居ボランティアの方から指導を受けながら完成させた。



< (令和5年度) 卒業前の6年生から助言をもらう4年生 >



「防災紙芝居」を引き継ぐにあたり、卒業前の6年生に演技を見てもらい「もっと強い声でこのセリフは言った方がいいよ。」などの助言をもらった。

<「ふれあいサロン」にて>



「ふれあいサロン」で地域の方々に「防災紙芝居」を披露した。アンケートをとったところ「災害の恐ろしさを忘れかけていたけど、忘れてはいけないと思った。」「すぐ避難しようと改めて思った。」などの回答をいただいた。

<「特別養護老人ホーム たかね荘こやうら」にて>



災害当時のことを思い出し、涙を流しながら紙芝居を見ている方もおられた。



「この紙芝居は災害のことがよく分かる。あなたらの力で、災害を風化させんといてね。」

<小屋浦みみょう保育園にて>



紙芝居後に児童と園児が交流し、感想を聞いた。園児たちは「どんな災害だったかよくわかったよ。」「すぐ逃げようと思ったよ。」などと話してくれた。災害の記憶がない園児たちに災害のこわさを伝えたり、防災意識を高めたりすることができた。

小屋浦小学校の近所であり、日頃から交流している「小屋浦みみょう保育園」の園児と保育士の皆さんに「防災紙芝居」を見てもらった。

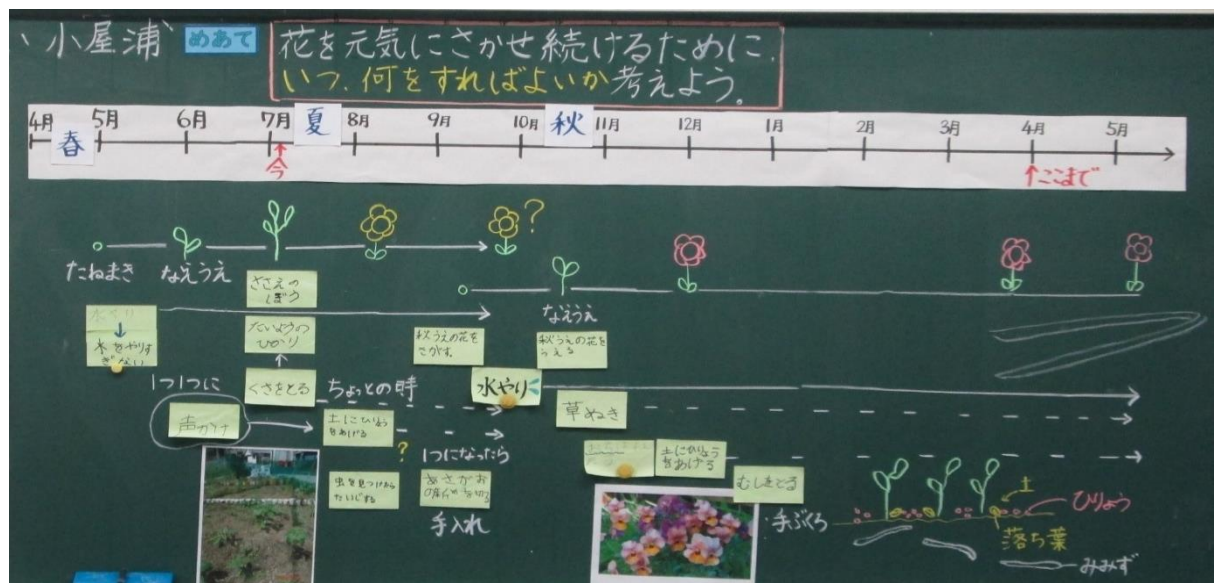


ここからは、令和6年度の6年生の4年間（3～6年生）の取組を紹介する。

令和3年度（3年生）の取組・・・【そなえる】災害について正しく学び、「スマイル花壇」

に花を咲かせる活動を通して、小屋浦を花いっぱい、笑顔いっぱいにする。

- 「総合的な学習の時間」の授業研究を行い、「花を元気に咲かせ続けるために、いつ、何をすればよいのだろうか。」という課題を解決し、活動の見通しをもった。その話合いの中で、自分たちの力だけでは花を咲かせ続けることが難しいので、地域の方々の力をお借りしたいということになり、地域の皆さんに協力を要請することにした。



- 児童の「スマイル花壇」の取組に協力者が現れ、「スマイルサポーター」との二人三脚の取組がスタートした。



令和4年度（4年生）の取組・・・【そなえる】災害について正しく学び、自らの防災意識を高めるとともに、地域の人々に発信する方法を考える。

- 令和4年4月30日に開館された「坂町災害伝承ホール」及び「小屋浦公園（坂町自然災害伝承公園も含む）」に見学に行き、水害碑、パネル展示、映像などを通して災害の実態を知り、災害や災害時への備え、避難行動について学んだ。

災害を語り継いでいかなければならないという思いと防災意識の向上を図ることができた。

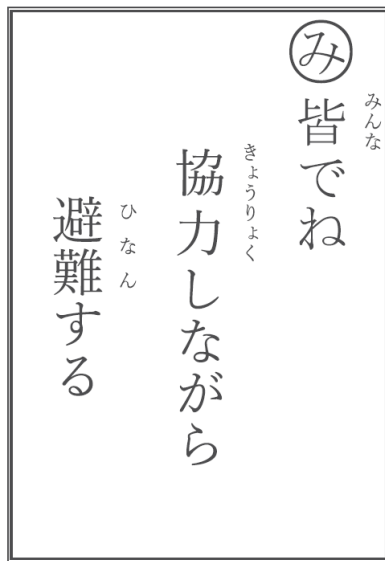


- 伝承ホールや小屋浦公園の見学に続いて、「小屋浦防災士会」の防災士 木村さんをゲストティーチャーに招き、避難する時に必要なことや、二度と災害で大きな被害が出ないようにするために大切なことを学んだ。

ここまでの学びを基に「防災カルタ」を制作することに決めた。



- 「小屋浦防災士会」の方々の力を借りながら「防災カルタ」を制作し、保護者や小屋浦小の児童に広めた。



令和5年度（5年生）の取組・・・【つなぐ・かかわる】学んだことを発信し、地域の防災意識を高めるとともに、小屋浦のために、自分にできることを考える。

- さまざまな場所で、たくさんの人に「防災カルタ」を知ってもらったり、体験してもらったりすることを通して、人々の防災意識を高める活動を行った。

<小屋浦防災士会主催の防災イベントにて>

イベントの参加者に「防災カルタ」を紹介し、参加者に体験してもらった。



＜小屋浦みみょう保育園との合同防災教室にて＞

小屋浦みみょう保育園の園児と合同で避難訓練をした後、「防災カルタ」を紹介し、カルタをプレゼントした。



＜「たかね荘こやうら」にて＞



＜「ふれあいサロン」にて＞



＜小屋浦小学校のホームページに掲載＞

児童はたくさんの人に「防災カルタ」を知ってもらうために、学校のホームページに掲載したいと考え、校長に相談し承諾を得た。

ホームページで「防災カルタ」を知った県内外の方から、お手紙をいただいたり、感想を聞かせていただいたりしたことや、近隣の団体から貸し出しの依頼がたくさん来たりしたことが児童の励みとなった。

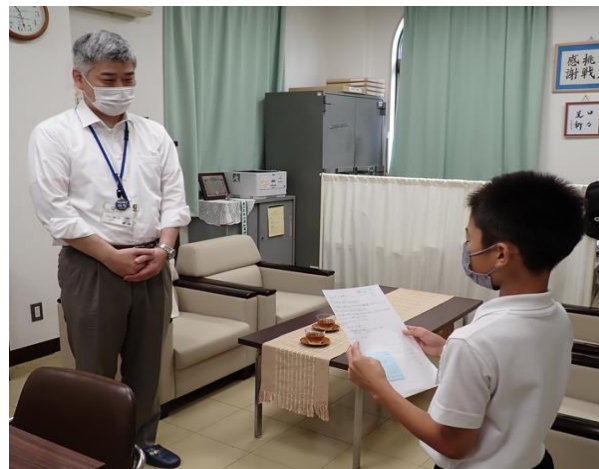


<小屋浦の公共施設にて>

小屋浦地区にある公共施設に「防災カルタ」を置かせていただくよう依頼した。



「小屋浦ふれあいセンター」



「坂町災害伝承ホール」

- 学習発表会で「地域の防災意識アップ!」という題で学習したことを伝えた。地域の方々の防災意識を高めるという目的をもち、3つの合言葉「そなえる」「助け合う」「落ち着いて」に沿って、「防災カルタ」を用いながら発表を行った。



- 坂町内の坂中学校の生徒と「オンライン交流会」を行い、お互いの防災の取組を交流した。中学生からは災害時にどのような避難行動をとるべきかや防災クッキングなどを教えてもらい、本校の児童は「防災カルタ」を紹介した。お互いに坂町の一人として、これからも自分や周りの人の命を守る取組を続けていこう、という気持ちをつなげることができた。



- 「総合的な学習の時間」の授業研究を行い、これまでの自分たちの防災の取組を振り返るとともに、今後、自分たちにできることは何かを考えた。ゲストティーチャーである「小屋浦防災士会」の防災士 木村さんから「災害に備えること、すぐに避難することはもちろん大切で、今後も続けていこう。さらに、君たちに大切にしてほしいことは『いっしょに逃げよう！』と声をかけ合える人間関係を日頃から築いておくこと。そのためには、日頃から、挨拶を交わしたり、町の行事に積極的に参加したりすることが大切。」というお話をいただいた。



- 「青少年育成坂町民会議総会」にて、5年生児童が「にぎやかで楽しい小屋浦の祭り」という題の作文を披露した。内容は「祭りという坂町の大切な文化をこれからも残していきたい。防災士の木村さんの言葉が、そう考えるきっかけの一つだ。」というものである。



児童の作文

「にぎやかで楽しい小屋浦の祭り」

—略—

総合的な学習の時間で、お世話になっている、小屋浦防災士会の木村さんが、このような話をしてくれました。

「防災で一番大事なことは、地域の人たちとしっかりとつながることです。日頃からあいさつをしたり、祭りなどの行事に参加したりすることで、お互いの顔や名前を覚えて仲よくなります。もしも災害が起きたとしても、みなさんがお年寄りに声をかければ、一緒に避難してくれるはずですよ。」

もしも、この先に土砂災害のような災害が起きても、地域の人たちとつながっておけば、助け合うことができると学ぶことができました。

ぼくは、今年の秋祭りもとても楽しみにしています。この気持ちをたくさんの人に伝えて、坂町や他の町からたくさんの人に見に来てほしいと願っています。そして、小屋浦の町の大切な文化を受け継いで、小屋浦から元気を届けていきたいです。

令和6年度（6年生）の取組・・・【いきぬく】発信を継続するとともに、小屋浦の未来のために、自分にできることを考える。

- 「小屋浦防災士会」に依頼し、入学してきた1年生と6年生とが合同防災教室を行ったり、「防災カルタ」をしたりすることを通して、避難行動を理解するとともに、非常時に「一緒に逃げよう！」と声をかけ合える人間関係づくりを行った。



- 「防災カルタ」の発信を継続した。

山口県への修学旅行での訪問先に「防災カルタ」を紹介するポスターを貼っていただくように依頼した。

<サファリランドにて>



<秋吉台にて>



児童が制作したポスター

西日本豪雨災害や新型コロナウイルス感染症流行の影響で弱くなっていた小屋浦地区住民のつながりを、再び強くしようという目的で開かれている「カフェつながり」に6年生児童が参加させていただき、「防災カルタ」を体験していただくことで住民の方々の防災意識を高めたり、児童と住民の方々がつながったりすることができた。

児童にとって祖父母世代の方の参加が多いため、より仲を深めるために、自己紹介の際には「ぼく（私）は、〇〇〇〇の孫の△△△△です。」と祖父母の名前も言うようにしたところ、参加者から「〇〇〇〇の孫か！おおきゅうなったのう。」などと声をかけてもらうことができ、和やかに会をスタートさせることができた。

ぼくは〇〇〇〇の孫の△△△△です。



- 「防災カルタ」を発信するとともに、自分たちの取組をさらにブラッシュアップするために、近隣の府中町にある府中中央小学校の5年生児童と防災教育での学びを交流した。府中中央小学校の5年生児童の発表から、自分たちが知らなかった視点、方法、内容を知ることができ、おおいに刺激を受けた児童は、その後、段ボールベッドを組み立てる体験をしたり、防災かまどベンチについて調べたりする学習につなげた。また、「防災カルタ」を初めて体験した府中中央小の児童から「災害が起きる前の準備のことや、災害が起きた時どうすればいいかなどがよく分かるのでとても良かったです。」「日頃から地域とつながっておくことが大切ということを知りました。これからはあいさつをするなど、日頃から地域とつながって防災意識を高めていきたいです。」などの感想をもらい、今後も防災意識を高める活動を継続していこうという意欲を高めた。



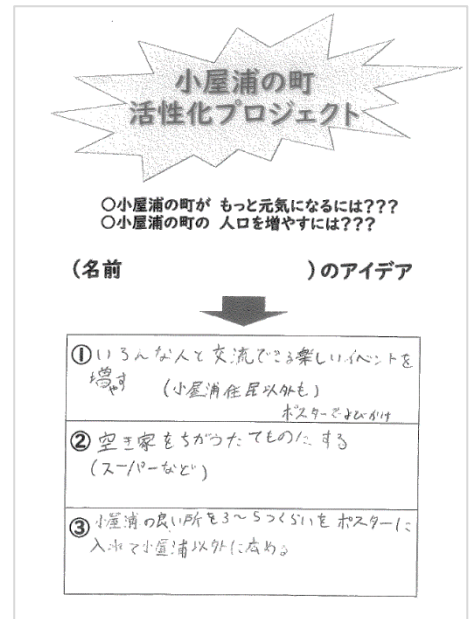
○ 小屋浦の未来のために、自分にできることを考える学習を行った。

学習のはじめに、「小屋浦をどんな町にしたいか」を考えたところ、人口が減って活気がないからもっとたくさんの人に住んでもらえる町にしたい、そのためには小屋浦に店をつくってもらいたい、などの考えが挙げられた。ちょうどその頃、坂町の吉田町長と小屋浦の住民が小屋浦の町づくりについて意見交換会を行うことが分かり、その会に参加する PTA 会長に、児童が考えた「小屋浦の町 活性化プロジェクト案」を提案していただくよう依頼した。

令和6年3月に6年生児童が坂町議会を傍聴させていただけることになった。その議事の中で坂町長が小屋浦地区の再開発事業について「被災から人口減少が続く小屋浦地区の復興なくして本町の復興はございません。小屋浦地区ににぎわいを創出し、人口増を図るため、町有住宅用地と新たに取得した旧シェル石油用地を活用し、商業施設や公営住宅等を誘致・整備する再開発事業に着手をいたしているところでございます。」と答弁されるのを聞くことができた。児童は、自分たちの願いが届いたことをとても喜び、今後も町の未来のために、自分にできることを考えていこうとする意欲を高めた。

次に、小屋浦を笑顔があふれる町にしたいという思いから、「橋の絵プロジェクト」がスタートした。

小屋浦地区には災害以来、何年間も砂防ダムの建設工事が行われており、その建設会社の方と小屋浦の住民は良好な人間関係を築いていた。小屋浦地区の復旧・復興が進み、令和6年で工事が終わる節目に、小屋浦の町の人々と思い出をつくりたいという建設会社の方の思いと、6年生の思いが一つになり、「小屋浦の人たちが笑顔になるようなことをやろう」ということになった。そこで始まったのが「橋の絵プロジェクト」である。建設会社の方にゲストティーチャーで来ていただき、6年生と協議を重ねながら、新しくできる橋に小屋浦小の児童が絵を描くプロジェクトを進めた。



6年生は熟議を重ねた後、各学年の児童に「このプロジェクトのゴールは、全校児童の力で小屋浦の地域の人々の笑顔を今よりもっと増やすことです。そのために、各学年のみんなと協力して橋に設置するイラストを描いてください。」と依頼した。



橋が完成し、3月には小屋浦の住民にも呼びかけて「橋の絵完成イベント」を行った。

この橋に描いた絵を見ることで、現在も未来も、小屋浦の町に笑顔が増えることだろう。



○ 「小屋浦キッズ防災士 認定式」

3年生から4年間の防災教育をやり遂げた6年生を「小屋浦キッズ防災士」に認定する式を行った。校長が「ふるさと小屋浦を愛し、小屋浦の復興・発展を支えようとする人でいてください。」とメッセージとバッジを贈った。



令和7年度 全校の取組

毎年7月6日には、小屋浦公園にて「西日本豪雨災害 追悼集会」を開いている。6年生が献花をし、作文を読んだ後、全校児童で写真を撮っている。



令和7年7月の「西日本豪雨災害 追悼集会」の後には、「お互いがんばっていることを知りたい。」という児童の声を受け、各学年の防災教育の交流会を行った。お互いの発表を聞き合った後、意見を交流したところ、「今でもスマイル花壇が気になるけど、3年生ががんばって花を咲かせ続けてくれているのでうれしいです。」「4年生がどんな防災バッグを考えるのが楽しみです。」など、お互いのがんばりを認め合う意見を出し合うことができた。この交流活動により今後の取組への意欲を高めることができた。

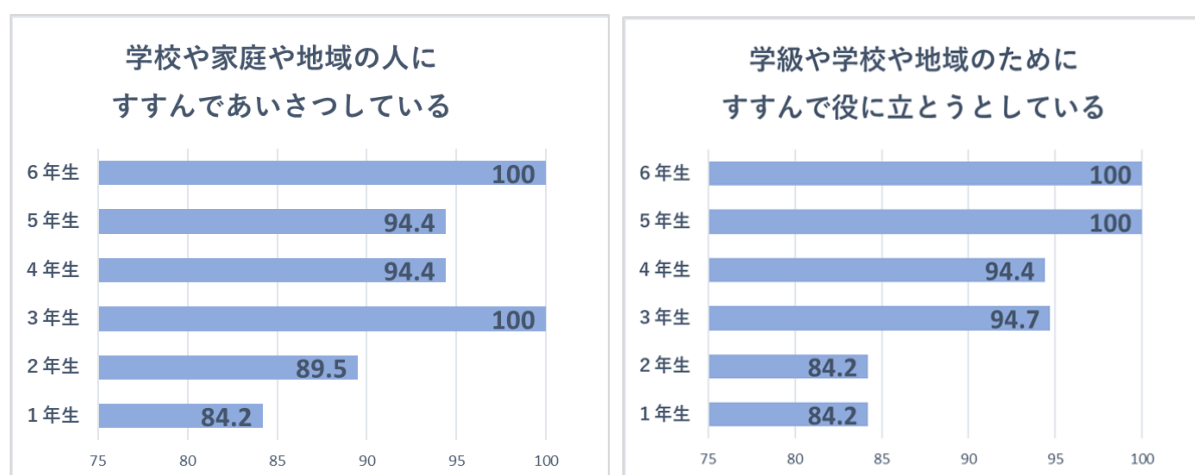


ここまで述べてきたように、小屋浦小学校の防災教育は、この活動状況報告のタイトル「地域と共に取り組む防災教育～ふるさと小屋浦を愛し、将来、小屋浦の復興・発展を支えようとする人材の育成～」の通り、小屋浦の地域や家庭と二人三脚で進められている。

4 成果と課題

(1) 成果の状況

- 4年間防災教育に取り組んだ6年生の学校評価アンケートの結果を経年比較したところ、防災教育を重ねると「一緒に逃げよう！」と声をかけ合える人間関係づくりや、小屋浦の町や未来のために自分にできることを考えることを大切にしようとする意識が高まっていることが分かる。



- 防災教育で学んだことが生活で生かされている。例えば、避難勧告が出た日、ある6年生児童の家に、小屋浦地区に住む祖父母が避難してきたところ、忘れ物に気づき自宅に取りに帰ろうとした祖母に対して、6年生児童が「取りに帰っちゃだめだよ、おばあちゃん。『防災カルタ』にもそう書いてあるじゃろ。」と言って止めた、ということがあった。また、ある保護者は「高齢者避難指示が出ても“まだ大丈夫だろう。”とのんびりしていたら息子に『うちにはおじいちゃんもおばあちゃんもおるんじゃけん、すぐ逃げようや。』と言われたので避難したんですよ。」と話してくれた。
- 「防災カルタ」の貸し出し希望が複数あり、貸し出した方々にはアンケートで感想をお聞きしている。その回答に「災害から数年が経ち、避難が億劫になってきていることを反省しました。カルタをやって、災害直後の気持ちを思い出し、すぐ避難しようと思いをひきしめました。」「においでも災害の兆候を察知できることが分かりました。においにも気を付けます。」などがあり、カルタを通して防災に関する知識や意識を高めることができていると考える。
- 毎年7月6日に行われる地域主催の慰霊イベントに参加した中学1年生が、携帯電話に残っている災害当時の写真を周りに見せながら、「こんなひどい被害が二度と起こらないように、自分たちが伝えていかないとイケんよねえ。」と話していた。ちょうどそこに小屋浦小の校長もおり、「災害の記憶が刻まれているから、小学校時代、防災意識を高める活動をがんばっていたんだね。」と言うと、中学生は深くうなずいた。小屋浦の復興・発展を支え、未来を生き抜こうとする人材の育成につながっていることを感じた。

- 7年が経過した現在も、地域と学校が一つになり、被災直後にスタートした防災教育に取り組むことができていることである。

令和6年度
小屋浦小 防災教育のまとめ

7月 災害6周年集會
災害から6年。災害碑の前に集い、復興への思いを新たにしました。地域の方や保護者の方も多く参列し、黙祷しました。未来へ語り継ぐことを誓いました。



9月 防災教室（1・4年）
『広島県みんなで被災推進課』の出前講座を受講しました。タブレットでハザードマップを作成し、自宅周辺の危険度を学びました。また、「避難所運営ゲーム」を体験し、避難所で起こる出来事を予想しながら必要な手立てを話し合うことができました。



いきぬく

第4学年 総合的な学習の時間
『小屋浦の安全守り隊』では、災害を知らない小さな子ども達へ向け、「まだみぬすべてのこともたちへ」という絵本を作成することにしました。命を守るために必要なことを伝えていきます。



第3学年 総合的な学習の時間
『花いっぱい 小屋浦』では、地域の方に苗の育て方や土作りについて教えていただきながら、スマイル花壇に花の苗を植えました。「スマイル花壇で町の人たちが笑顔になるように」という思いを込めながら取り組みました。



かかわる
つなぐ

第5学年 総合的な学習の時間
『小屋浦に笑顔を広げよう』では、卒業生から受け継いだ紙芝居を様々な所で発表しました。豪雨災害であったことを伝え、災害の恐ろしさ、早く避難することの大切さを伝え、地域の防災意識を高めました。



第6学年 総合的な学習の時間
『地域とつながる 笑顔あふれる小屋浦』では、「カフェつながり」で防災カルタ大会を開き、地域の防災意識を高めました。また、府中央小学校と交流授業を行い、自分たちが考えた防災の具体策や合言葉について伝えました。



そなえる

防災教育

児童の実態・児童の思い

- ・豪雨災害後、土砂災害について危機意識が強い。
- ・地域や高齢者の方々とのつながりを大切に、郷土愛が強い。
- ・地域を自分達の手で笑顔にしたい。

地域・保護者の願い

- ・確かな学力、豊かな人間性、健やかな体を育みたい。
- ・安心・安全な学校生活を送らせたい。
- ・豪雨災害の伝承者・復興の担い手になってほしい。

小屋浦小の防災教育とは

- ふるさと小屋浦を愛し、将来、小屋浦の復興・発展を支えようとする人材の育成
- ★「正しい知識や有効な手立て」を学び、未来に向けて備えていこうとする力を育てる。
- ★「自助・共助・公助」を意識し、人々とのつながりを大切にしていこうとする力を育てる。
- ★「経験」を未来に語り継ぎ、未来を生き抜いていこうとする力を育てる。

- ・ ICT活用の工夫や、新しい人材確保に取り組んだ改善策を実施している。

令和7年度（4年生）の取組

小屋浦小学校には災害直後に児童が模造紙で制作した「ハザードマップ」がある。災害から7年が経って復旧・復興が進み、町の様子が変わってきたり、「ハザードマップ」が老朽化したりしているため、十分に役立つものではなくなっている。

そこで、先輩たちがつくった大切な「ハザードマップ」を再び役立つものにしようという学習がスタートした。

住民福祉協議会の方々の力を借りてフィールドワークを行い、最新の町の様子を「デジタルハザードマップ」にまとめていく取組を行っている。デジタル化は「小屋浦防災士会」の方々の力を借りるよう依頼している。

模造紙で制作したハザードマップ



タブレットやスマートフォンで見られる

- ・ 今後もふるさと小屋浦を愛し、小屋浦の復興・発展を支えようとする人材の育成に真摯に取り組む続ける。

令和七年七月四日

西日本豪雨追悼集会での六年生児童の作文

平成三十年に起きた西日本豪雨災害から、七年が経ちました。当年中、四才だったぼくたちも、六年生となり、小屋浦小学校のリーダーとして、学校のために町のためにできることに取り組んでいます。その取組の一つが、豪雨災害を伝える紙しばいの伝承です。ぼくたち六年生は、四年生の時に、当時の六年生から、紙しばいを引きつぐことを約束しました。紙しばいを作った時の思いや、これから災害死ゼロにしていくために、自分たちができることについて学びました。五年生になると、保育園やたかね荘、ふれあいサロンなど、たくさん人の前で紙しばいを発表しました。六年生になってから、一年生や二年生に、「もう一度聞きたい。」と言われ、とてもうれしく思い、もう一度見てもらいました。これからも、紙しばいを通して、いろいろな場面で、より多くの人に災害のことを伝え、ぼくたち自身も防災や小屋浦の町づくりについて考えていきます。

ぼくたちは、今年、「絆」という学年目標をたてました。小屋浦小学校のみんな、小屋浦の町のみなさんと手を取り合って、日頃から仲良く協力すれば、いざという時でも、みんなの命が助かることにつながると思います。

これからも、この豪雨災害のことを忘れず、伝えていき、命を守る取り組みを広げていきます。